

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	人文学科	夜・通信	20	44	0	64	13	
国際文化学部	国際文化学科	夜・通信		9	0	29	13	
発達科学部	人間形成学科	夜・通信		2	0	22	13	
	人間行動学科	夜・通信						
	人間表現学科	夜・通信						
	人間環境学科	夜・通信						
国際人間科学部	グローバル文化学科	夜・通信		55	0	75	13	
	発達コミュニティ学科	夜・通信						
	環境共生学科	夜・通信						
	子ども教育学科	夜・通信						
法学部	法律学科	夜・通信		14	0	34	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		15	0	35	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		14	0	34	13	
理学部	数学科 物理学科	夜・通信 夜・通信	50	0	70	13		

	化学科	夜・通信					
	生物学科	夜・通信					
	惑星学科	夜・通信					
医学部	医学科	夜・通信					
	保健学科	夜・通信					
工学部	建築学科	夜・通信	1				
	市民工学科	夜・通信					
	電気電子工学科	夜・通信					
	機械工学科	夜・通信					
	応用化学科	夜・通信					
	情報知能工学科	夜・通信					
農学部	食料環境システム学科	夜・通信	0				
	資源生命科学科	夜・通信					
	生命機能科学科	夜・通信					
海事科学部	グローバル輸送科学科	夜・通信	6				
	海洋安全システム科学科	夜・通信					
	マリンエンジニアリング学科	夜・通信					
(備考) 国際文化学部及び発達科学部は、平成29年度より学生募集停止。							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ウェブサイトにて公表

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/green/time/jitumu.pdf>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ウェブサイトにて公表 http://www.kobe-u.ac.jp/info/organization/president/management/management.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	弘前大学 理事・副学長・ 事務局長	2018年4月 1日～2020 年3月31日	総務・財務・施設・ 環境
(備考) 2020年4月1日までに、複数の学外者である理事の選任を確実に実施する。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全授業科目においてシラバスを作成することとしており、医学部医学科を除いた学部で、教務情報システムを利用した統一様式によるウェブ化を行い、学内外に周知・公表している。また、医学部医学科のシラバスについても、医学部医学科のウェブサイトを通じて学内外に周知・公表している。</p> <p>シラバスの項目は、以下のとおり。</p> <p>①基本情報(科目分類、開講年次、時間割コード、開講区分、開講科目名、曜日・時間、主担当教員、単位数、授業形態、ナンバリングコード)</p> <p>②詳細情報(授業のテーマ、授業の到達目標、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意(関連科目情報)、事前・事後学修、オフィスアワー・連絡先、学生へのメッセージ、今年度の工夫、教科書、参考書・参考資料等、授業における使用言語、キーワード、参考URL)</p> <p>シラバス作成時期：11月～3月中旬 シラバス公表時期：3月中旬</p>	
授業計画書の公表方法	<p>HP</p> <p>http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/syllabus/index.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業担当教員は、授業計画(シラバス)の「成績評価方法」及び「成績評価基準」に基づき、学生の学修成果を評価している。</p> <p>また、学生は、成績評価について、当該授業科目の「成績評価基準」に照らして疑義がある場合は、成績評価について担当教員に説明を求めることができることとしている。</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では、「学位授与に関する方針」に掲げる国際的に卓越した教育を保証し、「単位の実質化」を進めるため、平成24年度入学生から「G P A (Grade Point Average)」を通知することとした。

「G P A」は、「成績評価基準」(秀、優、良、可、不可)に基づいて評価した成績の単位数に、それぞれのG P (Grade Point)を掛けて合計したものを、履修登録を行った単位数の合計で割って計算した、1単位あたりのG P 平均値 (Average) である。

成績評価はクォーター毎、「G P A」は学期毎に学生に通知している。

学生は、通知されたG P Aにより、学期毎及び在学中の成績評価の平均値を確認し、学習成果の指標とすることができる。

成績評価とG P Aは、学生自ら「うりぼーネット」(W e b)で確認できるようにしている。

成績の分布状況については、全学教務委員会において、学期ごとに確認している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ウェブサイトにて公表
<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/student.html>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、個性輝く人間性豊かな指導的人材の育成を通して、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献することを目指している。</p> <p>この目標達成に向け、本学では、教育課程を通じて授与する学位に関して、学部及び大学院において国際的に卓越した教育を保証するため、以下に示した2つの方針に従って当該学位を授与する。</p> <p>学部あるいは研究科に所定の期間在学し、卒業並びに修了に必要な単位を修得し、当該学部あるいは研究科が定める審査に合格する。</p> <p>卒業あるいは修了までに、本学学生が、それぞれの課程を通じて身につけるべき能力を次のとおりとする。</p> <p>「人間性」 豊富な教養と高い倫理性をそなえ、知性、理性及び感性が調和し、自立した社会人として行動できるようになるため、次の2つの能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面において、状況を適切に把握し主体的に判断する力 ・専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力 <p>「創造性」 伝統的な思考や方法を批判的に継承し、自ら課題を設定して創造的に解決できるようになるため、次の2つの能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学問分野の基本的なものの考え方を学び、自らの専門分野との違いを理解する力 ・能動的に学び、新たな発想を生み出す力 <p>「国際性」 多様な価値観を尊重し、多文化社会のより深い理解に努め、優れたコミュニケーション能力を発揮できるようになるため、次の2つの能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の言語で異なる文化の人々と意思を通じ合うことができる力 ・文化、思想、価値観の多様性を受容し、地球的課題を理解する力 <p>「専門性」 それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担えるように、学士課程にあつては、幅広い知識とそれを基盤とした専門的能力を、また大学院の各教育課程にあつては、深い学識と高度で卓越した専門的能力を身につける。</p> <p>それぞれの課程で身につける専門的能力は各学部が定めたうえで、卒業認定を適切に実施している。</p> <p>卒業の認定に関する方針は、HPで公表している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ウェブサイトにて公表 http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	神戸大学
設置者名	国立大学法人神戸大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/disclosure/law22/zaimu.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/disclosure/law22/zaimu.html
財産目録	—
事業報告書	http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/disclosure/law22/zaimu.html
監事による監査報告(書)	http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/disclosure/law22/zaimu.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画 名称：国立大学法人神戸大学年度計画 対象年度：平成16年度～
公表方法：ウェブサイトにて公表 (http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/plan/index.html)
中長期計画 名称：国立大学法人神戸大学の中期目標を達成するための計画(中期計画) 対象年度：平成16年度～
公表方法：ウェブサイトにて公表 (http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/plan/index.html)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：ウェブサイトにて公表 (http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/index.html)
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法：ウェブサイトにて公表 (http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/attestation.html)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法: HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、広い知識を授けるとともに、言葉及び文化、人間の行動並びに歴史及び社会に関する教育研究を行い、人間文化及び現代社会に対する深い教養、専門的知識、柔軟な思考力並びに豊かな表現能力を有する人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法: HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に 4 年以上在籍し、履修要件として定めた所定の単位以上（卒業論文を含む）を習得すること。卒業論文の単位取得のためには、指定の期日までに卒業論文を提出し、卒業論文試験に合格することを要する。文学部に在籍する学生が修了までに達成を目指す目標は、次の通りとする。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことを通じて人文学の幅広い知識を獲得する能力 ・人類の知的営みの蓄積である古典を通じた人文学共通の問題・課題についての理解力 ・文化・言語・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力 ・固有の学問的課題を知の普遍的課題に位置づける深い洞察力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。 2. 人類の文化的営みの蓄積としての人文学を、古典を通して深く理解するとともに、社会的対話により、それを実践することを通じて人文学的素養を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目及びその他必要と認める科目を開設する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積み、幅広い知識を身につけることができるように初年次セミナー、専門科目基礎科目、高度教養科目を開設する。 ・人類共通の叡智の蓄積である古典を通して人文学共通の問題・課題を発見できる理解力を身につけることができるように専門科目基礎科目、専門科目、グローバル科目を開設する。 ・文化・言語・学域の壁を越えた意思疎通および連携を可能にする社会的対話力を身につけることができるように専門科目、ESD科目、グローバル科目を開設する。 ・固有の学問的課題を知の普遍的課題に位置づけられる洞察力を身につけることができるように卒業論文、卒業論文関連科目を開設する。

<p>なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学修などを適宜組み合わせで行う。</p> <p>学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部では、人間がつくり上げてきた文化に対する好奇心を高め、多様な角度から人間存在の深みに光をあてる教育研究を行っています。各自の好奇心を学問的に問題化し検証する訓練を積むことで、人文学の幅広い知識と深い洞察力を身につけた人材を育成することを目標にしています。そのために、次のような学生を求めています。</p> <p>文学部の求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. みずみずしい感受性と想像力を持っている学生 2. 言葉や文化、人間の行動、歴史や社会に対する幅広い関心と好奇心を持っている学生 3. 基礎学力、とりわけ論理的思考力、日本語および外国語の読解力・表現力、情報リテラシーを備えている学生 4. 既成の価値観にとらわれることなく、自分で問題を発見し、探求していくことができる学生 <p>以上のような学生を選抜するために、文学部では、大学入試センター試験により総合的な基礎学力を測り、個別学力検査では「国語」「外国語」「数学」（後期日程にあつては、「外国語」「小論文」）を課すことにより、理解力、読解力、語学力、課題解決能力、論理的思考力、表現能力等を測ります。</p>

<p>学部等名 国際文化学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、現代世界における異文化間の相互作用並びにグローバル化による文化の変容及びコミュニケーションにかかわる教育研究を行うとともに、幅広い知識を身に付け、深い異文化理解能力及び自在なコミュニケーション能力を持つ人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>神戸大学国際文化学部は、開放的で国際性に富む環境の中で、「国境を越え、文化を横断し、活動する知性」を育成し、学問の発展、人類の幸福、地球環境の保全及び世界の平和に貢献することを目指している。</p> <p>この目標達成に向け、国際文化学部では、教育課程を通じて授与する学位に関して、国際的に卓越した教育を保証するため、以下に示した2つの方針に従って学士の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化学部原則として4年間在学し、卒業に必要な所定の単位を修得する。 ・全学で定めた学位授与方針の4つの目標を踏まえて、本学部学生が学習を通して卒業までに達成する目標は、次のとおりとする。

<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い教養と高い倫理性を身につけ、豊かな感性と柔軟な思考力をもって、自ら判断し行動できる。 ・様々な文化や異なる社会に対する理解力を持ち、異文化間の対話と問題解決を可能にする自在なコミュニケーション能力を発揮できる。 ・深い異文化理解と高度な情報コミュニケーション能力、さらには学際的知識を背景に、国際化時代の社会的要請に多角的に応えることができる。 ・文化の諸問題を世界的視野に立って考察し、地球規模で社会に貢献できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>国際文化学部では、本学部の「教育目標」及び「学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に基づき、以下のとおり体系的なカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通授業科目をとおして、幅広い知識と深い洞察力を培う。 2. 深い異文化理解と高度なコミュニケーション能力を活用して、現代世界の文化的状況を把握し、国際化時代の社会的要請に応える人材を育成するため、専門科目を設置する。 3. 卒業後の職業や学術活動において指導的役割を果たしうるように、専門分野において卓越するだけでなく、関心ある授業科目を幅広く履修して学際的な視点を養うように指導する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP) 平成29年度より学生募集停止のため公表していない。</p>
<p>(概要)</p> <p>平成29年度より学生募集停止</p>

<p>学部等名 発達科学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、広い知識を授けるとともに、乳幼児期から高齢者に至るまでの人間の発達及びそれを支える環境について様々な側面から教育研究し、教養、人間の発達及びそれを支える環境に関する専門的な知識並びに問題解決能力を有する人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>神戸大学発達科学部は、広い知識と豊かな教養を授けるとともに、乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について様々な側面から教育研究し、これらに関する専門的知見及び問題解決能力をもった、自律的な人材の養成を目指す。</p>
<p>学位授与の要件</p> <p>本学部で定めた期間在学し、本学部の教育目的に沿って設定された授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが、学位授与の要件である。修得すべき授業科目の中には、講義、演習、実験、実習、実技及び卒業研究が含まれる。</p>

課程修了の目安

人間の発達及びそれを取り巻く環境についての専門的知見並びに問題解決能力を備え、自律的な人間として行動できる人材となっているかが、本学部での課程修了の目安となる。

人間形成学科

人間形成学科に在籍する学生が卒業までに達成を目指す目標は次のとおりとする。

- ・人間の誕生から高齢期に至るころ及び諸能力の発達並びに人間形成に関わる諸要因について、社会的及び文化的な観点から専門的な知識を身につける。
- ・人間の形成をめぐる諸課題に対して、個別専門領域にとどまることのない包括的、学際的な問題解決能力を身につける。

人間行動学科

人間行動学科に在籍する学生が卒業までに達成を目指す目標は次のとおりとする。

- ・人間の発達と行動について、健康発達、行動発達、身体行動の観点から幅広い学際的な知識を習得し、各ライフステージにおける多様な人間行動を科学的に考察する洞察力を身につける。
- ・人間の生涯発達における、心身の健康、加齢と適応、身体活動や運動の実践に関する専門的知識を習得するとともに、諸課題に対して実践的に取り組む問題解決能力を身につける。

人間表現学科

人間表現学科に在籍する学生が卒業までに達成を目指す目標は次のとおりとする。

- ・人間の創造的表現に関する理論的・実践的な関心を問題化し、探求することで、人間の表現活動に関する鋭い洞察力と創造力を身につける。
- ・人間の多様な表現形式の壁を越えた複眼的なアプローチと連携を通じて、新しい表現と価値を生み出す能力を身につける。

人間環境学科

人間環境学科に在籍する学生が卒業までに達成を目指す目標は次のとおりとする。

- ・人間の発達を支え、助け、促すための環境のあり方について、多様な学問分野を横断する幅広い研究視点・方法を身につける。
- ・実験、フィールドワーク、シミュレーション、情報・統計分析、文献調査などの多彩な研究活動を通じて、考察する力を持ち、問題解決に向けて実践的に挑戦できる能力を身につける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

発達科学部では、本学部の「教育目標」及び「学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に基づき、以下の方針のもとに体系的なカリキュラムを編成する。

1. 乳幼児期から高齢期に至るまでの人間の発達及びそれを取り巻く環境について様々な側面から教育研究する本学部の目的を実現するために、これまでの学問研究の成果を踏まえ、かつ発達と環境に関わる諸課題に対する学際的視点から、学部を4学科、13履修コース（学科共通の発達支援論コースを含む）に分けて、学生をいずれかのコースに所属させ、少人数による教育を行う。
2. 人間の発達及びそれを取り巻く環境に関する専門的知見は、それぞれの学問分野における高度に専門的内容を深めると同時に、分野横断的に学んでいくことで修得されるものである。そのため、本学部では、学部共通科目ならびに学科共通科目を開設して、それぞれの問題領域を考えていく基礎となる知識と専門的な知識とを有機的に結びつけた体系的なカリキュラムを編成する。

<p>3. 人間の発達及びそれを取り巻く環境をめぐる現代的な問題は、これまでの学問分野における基礎的方法論をしっかりと身につけた上で、それぞれの問題をとらえ直す共同的な営みによって解決の糸口が得られる。こうした問題解決能力を養うために、本学部では、それぞれの学問分野の基礎的方法論や技能・技術を修得させるとともに、教員と学生ならびに学生同士の対話に基づいた教育活動や、卒業研究に向けた丁寧な指導体制を用意する。</p> <p>4. 以上のような観点に留意して、教育課程を編成・実施することで、専門的知識と問題解決能力をそなえた自律的な人材を養成する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP 平成29年度より学生募集停止のため公表していない)</p>
<p>(概要)</p> <p>平成29年度より学生募集停止</p>

<p>学部等名 国際人間科学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部は、グローバルイシューを深い人間理解と他者への共感をもって解決し、「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>神戸大学国際人間科学部は、グローバルイシュー（現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題）を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としている。</p> <p>この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。</p> <p>学位：学士（学術） グローバル文化学科</p> <p>神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部グローバル文化学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力 ・外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力 ・グローバルイシューを異文化理解の観点から理解する能力 ・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力

発達コミュニティ学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部発達コミュニティ学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
 - ・外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
 - ・グローバルイシューを人間発達及び人間科学の観点から理解する能力
 - ・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力

環境共生学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部環境共生学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
 - ・外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
 - ・グローバルイシューを環境共生の観点から理解する能力
 - ・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力

子ども教育学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
 - ・外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
 - ・グローバルイシューを人間発達及び次世代育成の観点から理解する能力
 - ・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力

学位：学士（教育学）

子ども教育学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は、以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を履修すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・グローバルイシューを構成する諸課題を発見する批判的・合理的思考力
 - ・外国語やICTを使いこなす多様なコミュニケーション能力と情報収集・分析能力
 - ・グローバルイシューを人間発達及び次世代育成の観点から理解する能力
 - ・現代社会の文化的多様性を尊重したより実践的な子ども教育に取り組む能力
 - ・グローバルイシューの解決に向けて、他者と協働しつつ、リーダーシップを発揮する行動力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

○学位：学士（学術）

・グローバル文化学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部グローバル文化学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。
 2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。
 - ・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。
 - ・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。
 - ・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。
 - ・グローバル文化を理解するために必要な基礎的知識及び外国語のコミュニケーション能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。
 - ・グローバル文化形成、グローバル社会動態、グローバル・コミュニケーションに関する中核的専門知識を身につけることができる学科コア科目を開設する。
 - ・グローバル文化形成、グローバル社会動態、グローバル・コミュニケーションに関する発展的専門知識を身につけることができる学科展開科目を開設する。
- なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実験・実習の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

・発達コミュニティ学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部発達コミュニティ学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。
2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。
 - ・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。
 - ・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。
 - ・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。

・発達コミュニティに関する基礎的知識を身につけることができる学科共通科目を開設する。

・発達基礎、コミュニティ形成に関する中核的専門知識を身につけることができる学科コア科目を開設する。

・発達基礎、コミュニティ形成に関する発展的専門知識を身につけることができる学科展開科目を開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実験・実習の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

・環境共生学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部環境共生学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。

2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。

・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。

・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。

・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。

・専門科目の学修に必要な基礎を理解する能力を身につけることができる共通専門基礎科目を開設する。

・環境共生に関する基礎を理解する能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。

・環境共生に関する課題を発見するために必要な中核的な分析能力を身につけることができる学科コア科目を開設する。

・環境共生に関する課題を解決するために必要な発展的な考察能力を身につけることができる学科展開科目を開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実験・実習の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

・子ども教育学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科

目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。

2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。

・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。

・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。

・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。

・子ども教育学の学修に必要な基礎を理解する能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。

・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を発見するために必要な中核的な分析能力を身につけることができる学科コア科目を開設する。

・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を、グローバルな視点及び共生教育の視点から解決するために必要な発展的な考察能力を身につけることができる学科展開科目を開設する。あわせて、そうした考察を踏まえて教育実践を発展させるために必要な問題解決能力を身につけることができる学科展開科目も開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実験・実習の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

○学位：学士（教育学）

・子ども教育学科

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、国際人間科学部子ども教育学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科目及びその他必要と認める科目を開設する。

2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）。

・グローバルイシューに対する批判的・合理的思考力や人々と協働できるリーダーシップ、外国語や ICT を使いこなすコミュニケーション能力と情報を収集し分析する能力を身につけることができるよう学部共通基礎科目を開設する。

・グローバルイシューを構成する諸課題を発見するため、多様な情報を収集し分析する能力、外国語や ICT を一層自在に駆使するコミュニケーション能力を身につけることができる学部共通発展科目を開設する。

・グローバルイシューの解決に向けて他者と協働しつつリーダーシップを発揮する行動力を身につけることができるグローバル・スタディーズ・プログラム科目を開設する。

・子ども教育学の学修に必要な基礎を理解する能力を身につけることができる学科共通科目を開設する。

・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を発見するために必要な中核的な分析能

力を身につけることができる学科コア科目を開設する。

・学校教育学、乳幼児教育学に関する課題を、グローバルな視点および共生教育の視点から解決するために必要な発展的な考察能力を身につけることができる学科展開科目を開設する。あわせて、そうした考察を踏まえて教育実践を多面的かつ総合的に発展させるために必要な問題解決能力を実践的に身につけることができる学科展開科目も開設する。

なお、これらの科目を実施するに当たり、講義、演習、実験・実習の授業形態に応じて、アクティブラーニングや体験型学修を適宜組み込み、少人数対話型教育を積極的に推進する。また、グローバル・スタディーズ・プログラムでは、海外研修とフィールド学修を組み合わせる。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

国際人間科学部では、グローバル社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わる諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

●国際人間科学部の求める学生像

1. 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生

[求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力]

2. 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生

[求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲]

3. 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生

[求める要素：主体性・協働性、関心・意欲]

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。

「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。

「数学」：数学的な表現力・総合力、論理的思考力。

「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。

「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、国際人間科学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

・AO入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

・「志」特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

・推薦入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

・社会人特別選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

学部等名 法学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、広く知識を授けるとともに、法学・政治学の教育研究を行い、幅広い教養及び法学・政治学の専門的知識を身に付け、ますます高度に専門化した社会における要請に対応しうる問題解決能力を有する人材及び急激に進展しつつある国際的環境のもと、法的・政治的な領域について国際的な貢献を行う能力を有する人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要) ・本学部に所定の期間在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 ・法学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力 ・政治学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力 ・多様な価値観を尊重し、法的・政治的領域の課題を適切に把握する能力 ・問題解決のために、幅広い思考により新たな発想を生み出す能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要) 1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、情報科目、及びその他必要と認める科目を開設する。 2. 深い学識を涵養し、「創造性」「国際性」「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(学部が開設する高度教養科目を含む。) ・法学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力を身につけることができるよう、入門科目、基本法律科目 A、基本法律科目 B、展開・発展科目、基礎法科目、法社会科学科目、国際法科目、演習科目、応用法律科目、共通科目を開設する。 ・政治学に関する幅広い知識とこれを基盤とした専門的能力を身につけることができるよう、入門科目、政治・国際関係論科目、演習科目、応用研究科目、共通科目を開設する。 ・多様な価値観を尊重し、法的・政治的領域の課題を適切に把握する能力を身につけることができるよう、基礎法科目、展開・発展科目、国際法科目、政治・国際関係論科目、外国書講読科目、共通科目、高度教養科目を開設する。 ・問題解決のために、幅広い思考により新たな発想を生み出す能力を身につけることができるよう、基礎科目、演習科目、応用研究科目、応用法律科目、共通科目を開設する。 なお、これらの科目は、講義・演習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。 学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>法学部では、幅広い教養と法学・政治学的素養とをそなえ、高度に専門化した社会における要請に対応し得る問題解決能力を身につけた人材および急激に進展しつつある国際的環境のなかで法的・政治的な領域における国際的な貢献を行う能力を有する人材の育成を目標として、次のような学生を求めています。</p> <p>●法学部の求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科学特有の一般的教養・知識を有し、その上で特に、日本語文章の読解・表現、外国語の理解・使用および理論的・数理的な思考に関する優れた能力を有する学生 〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力〕 2. それらの能力を活用しつつ広く法学・政治学の専門的知識を修得する意欲に富む学生 〔求める要素：知識・技能，主体性・協働性，関心・意欲〕 3. 国際的な領域での活躍を希望し、幅広い視野のもとで法学・政治学の専門的知識を積極的に活かそうとする学生 〔求める要素：知識・技能，主体性・協働性，関心・意欲〕 <p>※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容</p> <p>「国語」：読解力，コミュニケーション力，表現力，論理的思考力。 「地歴・公民」：社会に関する総合的な知識，様々な社会現象を捉える分析力。 「数学」：数学的思考力・表現力。 「理科」：自然科学の総合的理解力，論理的思考力。 「英語」：読解力，コミュニケーション力，表現力。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>以上のような学生を選抜するために、法学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。 ・「志」特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。 ・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
--

<p>学部等名 経済学部</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p> <p>(概要)</p> <p>本学部は、広く知識を授けるとともに、経済学に関する人類の知見を継承し、創造的に発展させることを通じて、豊かな人間性を涵養する教育研究を行い、経済学を中心とした広範な学問分野における高い専門性及び論理的思考力を持つ人材、幅広い教養及び協同の精神を有し、広く社会に貢献する人材並びに国際的な視野を持ち、世界で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p> <p>(概要)</p> <p>神戸大学経済学部は、広く知識を授けるとともに、経済学に関する人類の知見を継承し、創造的に発展させることを通じて、豊かな人間性を涵養する教育研究を行い、経済学を中心とした広範な学問分野における高い専門性及び論理的思考力を持つ人材、幅広い教養及び協同の精神を有し、広く社会に貢献する人材並びに国際的な視野を持ち、世界で活躍できる人材を養成することを目的とする。</p> <p>この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。</p>

<p>学位：学士（経済学）</p> <p>神戸大学のディプロマ・ポリシー、ならびに神戸高等商業学校以来の「真摯・自由・共同」の精神にもとづき、経済学部は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に所定の期間以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・卒業までに、幅広い豊かな教養とともに、経済学を基盤とした専門的知識を身に付け、社会において生じている事象を分析、解明し、その成果をもとに社会に貢献するために、神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、本学部学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・論理的・数理的に思考する能力 ・社会において生じている事象を的確に分析し、その事象を解明できる能力 ・分析、解明したことを総合し、的確に表現できる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>（公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）</p>
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。 2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・経済学の「専門性」を体系的に身につけるために、基礎的な専門的知識・能力の習得をめざす1年生向け基礎演習、初級経済学、経済史、統計学、経済倫理と思想等の必須科目を履修した上で、高度な知識・能力をめざす専門科目、上級科目を履修する段階的カリキュラムとする。 ・論理的・数理的に思考する能力を身につけるために中級ミクロ経済学、中級マクロ経済学、経済数学等の基礎理論系科目および計量経済学、経済統計学等の数量分析系科目を開設する。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会において生じている事象を的確に分析し、その事象を解明できる能力を身につけるために金融論、公共経済学、国際経済学、経済政策基礎論、日本経済論等の応用系分野別科目を開設する。 ・分析、解明したことを総合し、的確に表現できる能力を身につけるために研究指導等を開設する。 <p>なお、これらの科目は、講義・演習・研究指導等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、学外学修などを適宜組み合わせで行う。</p> <p>学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>（公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>経済学は人々の生活をどのように豊かにするかを追求するための学問です。神戸大学経済学部は開学以来の「真摯・自由・協同」の精神に基づいて広く社会においてリーダーとして活躍できる人材を育てることを目的として、次のような学生を求めています。</p> <p>●経済学部の求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広く、豊かな教養とともに経済学を基盤とした専門的知識を身に付け、社会の様々な出来事を分析し、論理的・創造的に思考できる学生 〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力〕 2. すぐれたコミュニケーション能力を発揮できる学生 〔求める要素：主体性・協働性，関心・意欲〕 3. 国際的に活躍するため英語など外国語を習得し、異文化を理解できる学生 〔求める要素：知識・技能，主体性・協働性，関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：文章を読み解く読解力。明確な表現力。

「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。

「数学」：数学的思考力，表現力，総合力。

「理科」：自然科学の総合的理解力，論理的思考力。

「英語」：読解力，コミュニケーション力，表現力。

●入学者選抜の基本方針

上記のような学生を選抜するために，経済学部ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ，以下の選抜において様々な要素を測ります。

- ・一般入試では，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。
- ・推薦入試では，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
- ・第3年次編入学試験では，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
- ・私費外国人(留)学生特別入試では，「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

学部等名 経営学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要) 本学部は，広く知識を授けるとともに，わが国における経営学・商学の中核的拠点として，先端的教育研究を行い，21世紀の知識・産業社会にあつて知的リーダーシップを発揮できる，豊かな教養，経営・経済・社会の全般にわたる基本的知識，経営に関する専門的知識，国際社会に通用する思考力，判断力及びコミュニケーション能力を備えた人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要) 神戸大学経営学部は，経営学・会計学・商学の領域において深き学識と高度で卓越した専門的能力を身につけ，人間性，創造性，国際性にも優れ，知的リーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指し，以下に示した方針に従つて学士の学位を授与する。</p> <p>学位：学士（経営学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に所定の期間在学し，本学部の定める卒業に必要な単位を修得する。 ・卒業までに，次の能力を修得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・企業に代表される組織とそれを取り巻く社会や環境との相互依存関係の本質を理解できるような，豊かな一般教養と高い倫理性 ・経営に関する実際と問題を把握し，それを実践的かつ革新的に解決するための意思決定をおこなえる思考力と判断力をもつことができるような，経営学・会計学領域の基本および専門的知識 ・経営に関する自分自身の考えを，国内だけでなく海外の人々にも適切に伝えることができる表現力およびコミュニケーション力 <p>学位：学士（商学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に所定の期間在学し，本学部の定める卒業に必要な単位を修得する。 ・卒業までに，次の能力を修得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・企業に代表される組織とそれを取り巻く社会や環境との相互依存関係の本質を理解で

<p>きるような、豊かな一般教養と高い倫理性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営に関する実際と問題を把握し、それを実践的かつ革新的に解決するための意思決定をおこなえる思考力と判断力をもつことができるような、商学領域の基本および専門的知識 ・経営に関する自分自身の考えを、国内だけでなく海外の人々にも適切に伝えることができる表現力およびコミュニケーション力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>神戸大学経営学部では、本学部の「教育目標」及び「学位授与に関する方針（ディプロマポリシー）」に基づき、経営学・会計学・商学の領域において深き学識と高度で卓越した専門性を身につけ、人間性、創造性、国際性にも優れ、知的リーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指し、体系的なカリキュラムを編成する。</p> <p>学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>経営学部は、経営学・会計学・商学の領域において高度な専門的知識を身につけ、次世代の知識・産業社会において知的リーダーシップを発揮できる人材の育成を目的としています。このことから経営学部では次のような学生を求めています。</p> <p>●経営学部の求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営・経済・社会の全般にわたる一般的・基礎的教育を受けるために必要な日本語・外国語の読解能力・表現能力と数理的・論理的思考能力をそなえた学生 [求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，] 2. 経営に関する多方面の専門知識を修得する意欲に富む学生 [求める要素：知識・技能，関心・意欲] 3. 学生相互で切磋琢磨できるような幅広い関心と向上心をもつ学生 [求める要素：主体性・協働性，関心・意欲] 4. 国際社会に通用する思考力，判断力およびコミュニケーション能力をもつことを希求する学生 [求める要素：思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲] <p>※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容（一般入試・推薦入試）</p> <p>「国語」：文章を読み解く読解力。明確な表現力。</p> <p>「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。</p> <p>「数学」：数学的思考力，表現力，総合力。</p> <p>「理科」：自然科学の総合的理解力，論理的思考力。</p> <p>「英語」：読解力，コミュニケーション力，表現力。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>以上のような学生を選抜するために、経営学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。 ・推薦入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。 ・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。 ・第3年次編入学入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

学部等名 理学部
教育研究上の目的 (公表方法: HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)
(概要) 本学部は、自然科学の基礎である理学諸分野を探究することによって自然の理解を深め、社会の進歩に貢献することを教育研究上の目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)
(概要) 神戸大学理学部は、自然科学の基礎である理学諸分野を探究することによって自然の理解を深め、社会の進歩に貢献することを教育研究上の目的とする。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。 学位: 学士 (理学) 数学科 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部数学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学全般を俯瞰する能力 ・数学の基礎を理解し応用する能力 ・数学の中核を理解し応用する能力 ・現代数学を理解する能力 ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力 物理学科 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部物理学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学全般を俯瞰する能力 ・物理学の基礎を理解し応用する能力 ・物質の構造および機能を理解する能力 ・現代物理学を理解する能力 ・物理学の実験手法を応用する能力 ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力 化学科 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部化学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。 <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学全般を俯瞰する能力

- ・化学の基礎を理解し応用する能力
- ・物質の構造および機能を理解する能力
- ・現代化学を理解する能力
- ・化学の実験手法を応用する能力
- ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力

生物学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部生物学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・科学全般を俯瞰する能力
 - ・生物学の基礎を理解し応用する能力
 - ・すべての生物に共通する生命の仕組み及び生物界の多様性の成り立ちを理解する能力
 - ・現代生物学を理解する能力
 - ・生物学の実験手法を応用する能力
 - ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力

惑星学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、理学部惑星学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーで定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・科学全般を俯瞰する能力
 - ・惑星学に必要な基礎を理解し応用する能力
 - ・地球及び太陽系・宇宙の諸現象を理解する能力
 - ・地球及び太陽系・宇宙を包括する惑星学を理解する能力
 - ・惑星学の実験、観測および調査手法を理解し応用する能力
 - ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

- ・教育課程の編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)
- 神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、理学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。
1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
 2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)
- ・数学科
 - ・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する
 - ・数学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう数学基礎科目を開設する
 - ・数学の中核を理解し応用する能力を身につけることができるよう数学基盤科目を開設する

- ・現代数学を理解する能力を身につけることができるよう数学発展科目を開設する
- ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう数学演義と数学講究を開設する

- ・物理学科
 - ・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
 - ・物理学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう物理学基礎科目を開設する。
 - ・物質の構造および機能を理解する能力を身につけることができるよう物理学専門科目を開設する。
 - ・現代物理学を理解する能力を身につけることができるよう物理学高度専門科目を開設する。
 - ・物理学の実験手法を応用する能力を身につけることができるよう物理学実験系科目を開設する。
 - ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。

- ・化学科
 - ・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
 - ・化学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう化学基礎科目を開設する。
 - ・物質の構造および機能を理解する能力を身につけることができるよう化学専門科目を開設する。
 - ・現代化学を理解する能力を身につけることができるよう化学高度専門科目を開設する。
 - ・化学の実験手法を応用する能力を身につけることができるよう化学実験系科目を開設する。
 - ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。

- ・生物学科
 - ・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
 - ・生物学の基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう生物学基礎科目を開設する。
 - ・すべての生物に共通する生命の仕組み及び生物界の多様性の成り立ちを理解する能力を身につけることができるよう生物学専門科目を開設する。
 - ・現代生物学を理解する能力を身につけることができるよう生物学高度専門科目を開設する。
 - ・生物学の実験手法を応用する能力を身につけることができるよう生物学実験系科目を開設する。
 - ・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。

- ・惑星学科
 - ・科学全般を俯瞰する能力を身につけることができるよう共通専門基礎科目を開設する。
 - ・惑星学に必要な基礎を理解し応用する能力を身につけることができるよう惑星学基礎科目を開設する。
 - ・地球及び太陽系・宇宙の諸現象を理解する能力を身につけることができるよう惑星学専門科目を開設する。
 - ・地球及び太陽系・宇宙を包括する惑星学を理解する能力を身につけることができるよう惑星学高度専門科目を開設する。
 - ・惑星学の実験、観測および調査手法を理解し応用する能力を身につけることができるよ

<p>う惑星学実験・実習系科目を開設する。</p> <p>・自ら課題を設定し、課題を創造的に解決する能力を身につけることができるよう特別研究科目を開設する。</p> <p>なお、これらの科目は、講義・演習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。</p> <p>学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>理学部では、数学、物理学、化学、生物学、惑星学のそれぞれの学問体系を土台にして、自然科学の基礎となる教育と研究を行い、世界をさまざまな面からとらえた数理現象、物質を構成する素粒子、原子、分子の性質や振る舞い、生命活動を担う分子の働きや生態系を支える多様性、あるいは地球や宇宙の成り立ちや動きなどを、講義、演習、実験、実習を通じて深く理解する人材を養成することを目指しています。このため、理学部では、次のような学生を求めます。</p> <p>●理学部の求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数学、理科学分野が対象とする多彩な自然現象に対し旺盛な知識欲をもち、批判的精神と独立心に富んだ見方や考え方ができる学生 [求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲] 2. 人文科学、社会科学など多方面の分野に興味を示すとともに、総合的な理解力を持つ学生 [求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲] 3. 特定の科目に際立って優秀で、独自性の豊かな学生 [求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力] 4. 日本語や英語の基本的学力をそなえ、それによる表現力、コミュニケーション能力の向上に意欲のある学生 [求める要素：知識・技能、主体性・協働性、関心・意欲] <p>※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容</p> <p>「国語」：文章を読み解く読解力。明確な表現力。</p> <p>「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。</p> <p>「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。</p> <p>「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。</p> <p>「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。</p> <p>●入学者選抜の基本方針</p> <p>以上のような学生を選抜するために、理学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。 ・AO入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。 ・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

<p>学部等名 医学部医学科</p> <p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>広い知識を授けるとともに、医学・生命科学分野の教育研究を行い、高度な専門的知識・技術を身に付けさせ、高い倫理観並びに旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持つ医師及び医学・生命科学における先端的・学際的研究を推進する研究者を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>神戸大学医学部医学科は、広い知識を授けるとともに、医学・生命科学分野の教育研究を行い、高度な専門的知識・技術を身に付けさせ、高い倫理観並びに旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持つ医師及び医学・生命科学における先端的・学際的研究を推進する研究者を養成すること、また、広い視野を有し、それぞれの領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目的としている。</p> <p>この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。</p> <p>学位：学士（医学）</p> <p>神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、医学部医学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学科に6年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得し、かつ卒業試験に合格すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・礼儀・態度 患者や医療従事者等に対して良好な人間関係を構築することができる。 ・科学的探究心 生命科学に対する探究心と感性をもち、科学的思考能力と創造性をそなえている。 ・知識と技能 基礎と臨床のバランスのとれた知識をもち、的確な臨床推理能力を有している。 病態を理解し、それに即した基本的技能を修得している。 ・倫理観 確固とした倫理観をもちつつ、周囲との連携の中で自己を変革し続けることができる。 ・向上心 自ら目標を設定し、課題を抽出し、解決に向けた取り組みができる。 長期的な展望にたち、有為の人材たらしめる気概をもっている。 ・リーダーシップ 多様性を受容できる人間性をもち、リーダーシップを発揮して地域社会に貢献できる。 ・国際性 広範な情報を収集・分析することができ、適切な議論ができる語学力と国際性を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、医学部医学科は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科

目を開設する。

2. 深い学識を涵養し、医学科生として必要な「専門性」及び「礼儀・態度」「科学的探究心」「知識と技能」「倫理観」「向上心」「リーダーシップ」「国際性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)

- ・「礼儀・態度」を身につけることができるよう総合医学、総合実習を開設する。
- ・「科学的探究心」を身につけることができるよう高度教養科目、基礎臨床・融合科目、総合医学、転換教育科目、総合実習、選択科目、臨床医学・チュートリアルを開設する。
- ・「知識と技能」を身につけることができるよう総合実習、共通専門基礎科目、転換教育科目、基礎・臨床融合科目、総合医学、を開設する。
- ・「倫理観」を身につけることができるよう転換教育科目、高度教養科目、基礎・臨床融合科目、基礎医学、総合医学を開設する。
- ・「向上心」を身につけることができるよう転換教育科目、選択科目、臨床医学・チュートリアル、総合医学、総合実習を開設する。
- ・「リーダーシップ」を身につけることができるよう転換教育科目、臨床医学・チュートリアルを開設する。
- ・「国際性」を身につけることができるよう転換教育科目、高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

医学部医学科における教育は、高い倫理観を有し高度な専門知識・技能を身につけた医師を養成することを目的としていますが、それにとどまらず、旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持った医師および生命科学・医学研究者を育成することを目指しています。また広い視野を有し、それぞれの領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。このことから、これらのことを受け止めることのできる能力や知識を持った次のような学生を求めています。

●医学部医学科の求める学生像

1. 生命科学・医学に強い興味を持ち、探究心と学習意欲が旺盛な学生
〔求める要素：関心・意欲〕
2. しっかりとした基礎学力を身につけている学生
〔求める要素：知識・技能〕
3. 協調性があり、問題解決においては独創性と指導力を発揮できる学生
〔求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性〕
4. 国際的に活躍する意欲を持った学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：文章を読み解く読解力。明確な表現力。

「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。

「数学」：数学的思考力，表現力，総合力。

「理科」：自然科学の総合的理解力，論理的思考力。

「英語」：読解力，コミュニケーション力，表現力。

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、医学部医学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

- ・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
- ・AO入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関

<p>心・意欲」を測ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。 ・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

<p>学部等名 医学部保健学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要) 広い知識を授けるとともに、総合保健医療の創造及び実践に向けた研究を行い、保健医療福祉チームの中で協働して人々の健康を支え、国内外の医療及び人類の幸福に貢献することのできる高度な専門的知識、技術及び豊かな人間性を有する医療人並びに問題を発見し解決していくために必要な科学的・論理的思考、創造的探求心及び研究志向性を有する医療人の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要) 神戸大学医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としている。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。 この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。</p> <p>学位：学士（看護学） 看護学専攻 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、医学部保健学科看護学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部保健学科看護学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーが定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科看護学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。 <p>「人間性と倫理性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と教養を持ち、保健医療における高い倫理性、柔軟性、協調性、当事者性を身につけた看護専門職者となるための基礎的能力 ・ひととして、看護専門職者として生涯成長していく能力 <p>「創造性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に事象を解釈し、ケアリングの視点を持ち、よりよいケアを創造する能力 ・主体的・自律的に行動し、看護の独自性・専門性を探求する能力 <p>「地域性・国際性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化・価値観を尊重し、地域・国際社会で活躍する基礎的能力 ・地域・国際社会における多彩な Well-being と健康課題に関心をもち探求する能力 <p>「専門性と協働」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活の質（QOL）の向上をめざし、幅広い知識と確かな技術・豊かな感性を備えて看護実践する能力 ・医療の基礎学力と専門知識を習得した看護専門職者として、保健医療福祉チーム

において協働する能力

- ・科学的・論理的思考力、実行力、コミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮する能力

学位：学士（保健衛生学）

検査技術科学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、保健学科検査技術科学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部保健学科検査技術科学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科検査技術科学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理観」

- ・医療チーム・研究チーム・教育チームの一員として卓越した人間性を備え、高い倫理観にもとづいた行動により、社会の第一線で活躍しうる臨床・研究・教育活動の能力

「創造性」

- ・進取の気質と問題解決に対する柔軟な想像性を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む能力

「地域性・国際性」

- ・疾病の診断・早期発見・治療評価や健康状態の把握に対して、地域医療の中心を担う能力
- ・国際的な視野から検査技術と医療を俯瞰し、英語を用いて学術的に適切な情報収集と発表を行い、第三者と良好な意思疎通がはかれる能力

「専門性と協働」

- ・医療検査技術についての高度の専門知識と検査技能を得るための主体的学習能力
- ・医療従事者・自然科学研究者と協調して人間福祉の向上に寄与する能力

学位：学士（保健学）

理学療法学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科理学療法学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部保健学科理学療法学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科理学療法学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・豊かな人間性と保健医療における高い倫理性を身につけた保健医療専門職者として臨床に携わる能力

「創造性」

- ・標準的な理学療法の理論と技術を修得し、旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決することにより、理学療法とその関連分野の未来を創造する能力
- ・先人の知識を尊重し、基礎・臨床研究を通じてエビデンスを創造する能力

「地域性・国際性」

- ・多様な地域課題を把握し、貢献するための社会性を備えた能力
- ・理学療法の理論と技術を通じて、国際的に活躍できるための基礎的な能力

「専門性と協働」

- ・医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、対象者や他専門職と相互に信頼し、良好な人間関係を築くことにより保健医療福祉チームにおいて協働できる能力

<p>学位：学士（保健学） 作業療法学専攻</p> <p>神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科作業療法学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部保健学科作業療法学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。 <p>「人間性と倫理性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法専門職としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、社会の発展に積極的に寄与する能力 ・個々人の人権を尊重し、深い共感性を持って、対象となる方々の特性を理解し、自立に向けた支援を提供する能力 <p>「創造性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究心と創造力を持って課題を設定し、解決できる実践的な能力 ・問題を解決するために、科学的な分析・考察をし、論理的に考える能力 <p>「地域性・国際性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い視野を持ち、作業療法に関わる専門的知識を活用して多職種連携により地域社会へ貢献できる能力 ・グローバルな視点で自らの課題を整理・理解するとともに、的確なプレゼンテーション、円滑なコミュニケーションをする能力 <p>「専門性と協働」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・保健・福祉など各分野における高度な作業療法学の専門的知識および技術を習得するために主体的かつ継続的に学習する能力 ・高度な医療専門職として、チーム医療の現場で関連職種との優れたコーディネート能力を発揮し、協働する能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>学位：学士（看護学） 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 看護学専攻</p> <p>神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、医学部保健学科看護学専攻は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人間性と倫理性」「創造性」「地域性・国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科学、高度教養科目及びその他必要と認める科目を開設する。 2. 深い学識を涵養し、「専門性と協働」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む） <ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活の質（QOL）の向上をめざし、幅広い知識と確かな技術・豊かな感性を備えて看護実践する能力を身につけることができるよう国際保健、災害保健などの高度教養科目、現代医療と生命倫理などの共通特論、看護原論、ひとと環境、などの講義科目、生活援助技術演習、治療援助技術演習、リフレクション演習、看護実践統合演習などの演習科目、看護実践基盤実習、看護実践展開実習などの実習科目、看護研究方法論、卒業研究を開設する。 ・医療の基礎学力と専門知識を習得した看護専門職者として、保健医療福祉チームにおいて協働する能力を身につけることができるよう I P W 概論、保健学初年次セミナーなどの共通特論、初期体験実習、I P W 統合演習などの高度教養科目、病理学、健康と栄養、薬

と生体反応、身体の仕組みと働きなどの講義科目、解剖学演習、フィジカルアセスメント演習などの演習科目、看護実践基盤実習、看護実践展開実習などの実習科目を開設する。

・科学的・論理的思考力、実行力、コミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮する能力を身につけることができるよう保健学初年次セミナー、初期体験実習などの共通特論、災害保健、国際保健、IPW統合演習などの高度教養科目、統計学、病理学、保健行政論、生化学、援助過程論、症状マネジメント論などの講義科目、リフレクション演習、看護実践統合演習などの演習科目、看護実践基盤実習、看護実践展開実習などの実習科目、看護研究方法論、卒業研究を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

学位：学士（保健衛生学）

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

検査技術科学専攻

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、保健学科検査技術科学専攻は以下に示した方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
2. 深い学識を涵養し、「専門性と協働」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。（共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む）
 - ・「高度の専門知識と検査技術」を身につけることができるよう現代医療と生命倫理、初期体験実習、IPW 概論などの共通特論、IPW 統合演習（高度教養科目）、解剖学、生理学、生化学、統計学、病理学、免疫学、分子生物学概論、公衆衛生学、臨床血液学、臨床細菌学、臨床検査医学、遺伝子・染色体検査学、生理機能検査学、ウイルス検査学、臨床細菌検査学などの講義科目、
生理学実習、解剖学実習、公衆衛生学実習、臨床化学実習、臨床免疫学実習、臨床血液学実習、臨床生理学実習、病理組織細胞学実習、ウイルス検査学実習などの実習科目、検査統合演習、検査情報解析学演習などの演習科目を開設する。
 - ・「社会の第一線で活躍しうる研究・教育活動」を身につけることができるよう災害保健（高度教養科目）、保健行政論（講義科目）、原書講読、卒業研究を開設する。
 - ・「技術及び機器の研究開発」を身につけることができるよう検査管理総論、機器分析学、検査機器学、生体情報計測学、医療システム論などの講義科目、機器分析学実習、生体情報計測学実習などの実習科目を開設する。
 - ・「国際学術交流への貢献」を身につけることができるよう国際保健、国際感染症論などの高度教養科目、ウイルス学、国際情報検索などの講義科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

学位：学士（保健学）

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

作業療法学専攻

神戸大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、医学部保健学科作業療法学専攻は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性と倫理性」「創造性」「地域性・国際性」を学生に身につけさせるため、すべ

ての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。

2. 深い学識を涵養し、「専門性と協働」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)

- ・医療・保健・福祉など各分野における高度な作業療法学の専門的知識および技術を習得するために主体的かつ継続的に学習する能力を身につけることができるよう国際保健、リハビリテーション工学・福祉用具学などの高度教養科目、初期体験実習、現代医療と生命倫理などの共通特論、作業療法概論、基礎作業学、身体障害作業療法学、精神保健作業療法学Ⅰ・Ⅱ、発達障害作業療法学などの講義科目、基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ、身体障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ、精神保健作業療法学Ⅰ・Ⅱ実習、発達障害作業療法学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床実習Ⅰ～Ⅴなどの実習科目、卒業研究などを開設する。
- ・高度な医療専門職として、チーム医療の現場で関連職種との優れたコーディネート能力を発揮し、協働する能力を身につけることができるよう災害保健、I PW統合演習などの高度教養科目、保健学初年次セミナー、I PW概論などの共通特論、リハビリテーション概論、解剖学Ⅱ・Ⅲ、病理学Ⅰ・Ⅱ、精神医学Ⅰ・Ⅱ、在宅援助論などの講義科目、作業療法フィールド実習、リハビリテーション工学・福祉用具学実習、作業療法統合実習などの実習科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

入学者の受入れに関する方針
(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。このため、次のような学生を求めています。

- 医学部保健学科の求める学生像
 1. 明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
[求める要素：関心・意欲]
 2. ひとに対する深い思いやりと協調性、優れたコミュニケーション能力を持った学生
[求める要素：主体性・協働性]
 3. 自ら問題を発見し、解決にあたることのできる学生
[求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性]
 4. 保健医療・健康科学を学ぶために必要な自然科学および社会科学の基礎知識と日本語・外国語の基礎学力をそなえた学生
[求める要素：知識・技能]
- ※高等学校等で修得しておいてほしい内容
 - 「国語」：文章を読み解く読解力。明確な表現力。
 - 「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。
 - 「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
 - 「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
 - 「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
- 入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、医学部保健学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

 - ・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を測ります。
 - ・「志」特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」

<p>「関心・意欲」を測ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人特別選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。 ・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
--

<p>学部等名 工学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)</p>
<p>(概要) 本学部は、各学科の専門分野について幅広い知識及び学際的視点を有する人材、特に複眼的視野を有する創造性豊かな人材を養成するため、専門性、学際性及び実践性を重視した教育研究を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要) 神戸大学工学部は、神戸大学ディプロマ・ポリシーに定める人間性、創造性、国際性に加え、各学科の専門分野について幅広い知識及び学際的視点を有する人材、特に複眼的視野を有する創造性豊かな人材、工学に関する知識体系を用いて社会課題の解決に取り組む能力を養成することを目的としている。この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。</p> <p>学位：学士（工学） 建築学科 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部建築学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに建築学科学生が、身につけておくべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・人間生活の基盤である住宅及び建築施設を創造するために必要な「計画」・「構造」・「環境」という建築の基礎的学問領域の知識 ・これらを総合して現実的課題に対応する具体的解答を導き出す「空間デザイン」の能力 <p>市民工学科 神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部市民工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。 ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・専門基礎学力に関する能力を身につけること。 ・多面的思考・技術者倫理に関する能力を身につけること。 ・実務に関する能力を身につけること。 ・解析・ツール応用・創造思考に関する能力を身につけること。 ・環境・文化・歴史に関する能力を身につけること。

- ・コミュニケーションに関する能力を身につけること。
- ・基礎学力に関する能力を身につけること。
- ・総合的課題解決に関する能力を身につけること。

電気電子工学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部電気電子工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、電気電子工学科学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・幅広い見識及び電気電子工学に関わる基礎学力
 - ・電子物理分野に関する知識及び専門的能力
 - ・電子情報分野に関する知識及び専門的能力
 - ・電気エネルギー制御分野に関する知識及び専門的能力
 - ・電気電子工学に関する知識を用いて、創造的に思考し、課題解決に取り組む能力

機械工学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部機械工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・幅広い見識および基礎学力
 - ・熱・流体分野の深い学識と専門的問題解決能力
 - ・材料物理分野の深い学識と専門的問題解決能力
 - ・機械制御分野の深い学識と専門的問題解決能力
 - ・機械設計・生産分野の深い学識と専門的問題解決能力
 - ・専門知識に立脚した機械工学技術者としての研究開発能力

応用化学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部応用化学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに応用化学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・応用化学的な知識に基づく高い倫理性と豊かな人間性
 - ・応用化学の基礎となる工学的素養と理解力
 - ・物質化学に関する幅広い学識と専門的能力
 - ・化学工学に関する幅広い学識と専門的能力
 - ・応用化学に関する学識を用いて、社会的課題を議論し、解決に取り組む研究能力

情報知能工学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、工学部情報知能工学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに情報知能工学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・高度な専門知識を修得し、これを活用する能力
 - ・幅広い見識を備え、これを活用する能力
 - ・広い視点から課題にアプローチするための基礎となる能力
 - ・広い視点から課題にアプローチするための応用力・創造的な能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、工学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」、「創造性」、「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学およびその他必要と認める科目を開設する。特に建築学科にあっては、「人間性」を身につける科目として、建築・都市・環境法制 A、B、建築・都市安全計画 B 等を開設する。「創造性」を身につける科目として、造形演習 A、B、設計演習ⅠA、B、同ⅡA、B、計画演習ⅠA、B 等を開設する。「国際性」を身につける科目として、西洋建築史 A、B 等を開設する。

2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。

・高度な専門知識を身につける。ことができるよう、計画系科目群では、住居計画、建築計画 B、C、都市計画 A、B、日本建築史 A、B、建築意匠、建築設計論、居住環境論、都市設計論、都市・地域計画、環境デザイン A、B 等を、構造系科目群では、建築鋼構造学Ⅱ、建築コンクリート構造学Ⅱ、建築耐震構造 A、B、構造計画学 A、B、建築構法 A、B、システム構造解析 A、B、建築複合構造学 A、B、ライフサイクルマネジメント A、B 等を、環境系科目群では、建築環境工学ⅠA、B、同Ⅱ、同ⅢA、B、熱環境計画 A、B、音環境計画 A、B、都市環境計画 A、B、建築設備システム A、B、光環境計画 A、B 等を開設する。

・幅広い見識を身につけることができるよう、計画系科目群では、設計基礎 A、B、建築計画 A、建築・都市安全計画 A、都市・住宅史 A、B 等を、構造系科目群では、構造力学Ⅲ-1、2、建築生産学 A、B、構造演習Ⅱ-1、2、建築鋼構造学Ⅰ-1、2、建築コンクリート構造学Ⅰ-1、2、建築工学実験 A、B 等、環境系科目群では、建築環境工学ⅠA、B、同Ⅱ、同ⅢA、B 等を開設する。

・広い視点から課題にアプローチできる基礎学力を身につけることができるよう、図学Ⅰ、2、図学演習Ⅰ、2、建築原論、建築素材論 A、B 等の他、計画系科目群では、設計演習ⅢA、B 等を、構造系科目群では、構法システム、構造力学Ⅰ、同Ⅱ-1、2、振動学 A、B、構造演習Ⅰ-1、2、防災構造工学 A、B、建築材料学 A、B 等、環境系科目群では、熱環境計画 A、B、音環境計画 A、B、都市環境計画 A、B、光環境計画 A、B、建築設備システム A、B 等を開設する。

・広い視点から課題にアプローチできる応用力・創造力を身につけることができるよう、計画系科目群では、近代建築史、現代建築論、計画演習ⅡA、B、まちづくり論等を、構造系科目群では、構造設計ⅠA、B、同ⅡA、B 等を、環境系科目群では、熱環境計画 A、B、音環境計画 A、B、都市環境計画 A、B、光環境計画 A、B、建築設備システム A、B 等を開設する。

・総合的課題解決に関する能力を身につけることができるよう、卒業論文・卒業設計の指導を行う卒業研究を開設する。

これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

工学部では、地球環境をまもりながら、安全・安心かつ快適で豊かさを感じられる持続可能な社会を実現するための科学・技術を探求しています。そのために、各学科の研究する最先端科学・技術分野で必須となる基礎的な学識を身に付けた上で、国際社会で創造的・先端的な役割を担い、次世代を切り拓いてゆく技術者や研究者の育成を目標に、神戸大学アドミッション・ポリシーが定める神戸大学が求める学生像に加え、特に次のような学生を求めています。

●工学部の求める学生像

1. 旺盛な好奇心と探求心を持つ学生

〔求める要素：関心・意欲〕

2. 自由な発想と批判的精神を持つ学生

〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕

3. 国際的な活動に積極的に取り組む学生

〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

4. 科学と技術を通じて、地球環境と人類社会との共生・調和に貢献しようとする学生

〔求める要素：知識・技能、主体性・協働性、関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：文章を読み解く読解力。論理を正確に伝えるための作文力。

「地歴・公民」：人類社会と地球環境の関係など様々な社会現象を正確に捉える分析力。

「数学」：数学的（論理的）解析力・思考力、定式化により論理を記述する表現力。

「理科」：自然現象を対象とした観察力・分析力、および、思考の展開力。

「英語」：高い語彙力を備えた読解力・作文力に加え、国際社会を見据えたコミュニケーション力。

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、工学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

・「志」特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

学部等名 農学部

教育研究上の目的

(公表方法：HP

http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)

(概要)

本学部は、広範な知識を授けるとともに、食料・環境・健康生命に代表される農学の諸課題を探求することによって、持続共生社会を構築するための技術及び知的基盤の創成を教育研究上の目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

神戸大学農学部は、農学を核とする広範な知識を授けるとともに、食料・環境・健康生命に代表される農学の諸課題を探究することによって、持続共生社会を構築するための知識と技術を備えた人材を育成し、知的基盤を創成することを目的としている。

この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（農学）

食料環境システム学科生産環境工学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部食料環境システム学科生産環境工学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・食や農に関わる工学的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
 - ・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる工学的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
 - ・食や農に関わる工学的分野の専門知識にもとづき、実験・調査を行い、解析を行うことができる。
 - ・食や農に関わる工学的分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

食料環境システム学科食料環境経済学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部食料環境システム学科食料環境経済学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・食や農に関わる社会経済的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
 - ・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる社会経済的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
 - ・食や農に関わる社会経済的分野の専門知識にもとづき、情報収集・社会調査を行い、分析を行うことができる。
 - ・食や農に関わる社会経済的分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用することができる。

資源生命科学科応用動物学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部資源生命科学科応用動物学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・食や農に関わる動物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
 - ・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる動物科学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
 - ・食や農に関わる動物科学分野の専門知識にもとづき、実験・情報収集・調査を行い、分析を行うことができる。
 - ・食や農に関わる動物科学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

資源生命科学科応用植物学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部資源生命科学科応用植物学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・食や農に関わる植物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
 - ・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる植物科学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
 - ・食や農に関わる植物科学分野の専門知識にもとづき、観察・実験を行い、分析を行うことができる。
 - ・食や農に関わる植物科学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

生命機能科学科応用生命化学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部生命機能科学科応用生命化学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・食や農に関わる生命化学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
 - ・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生命化学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
 - ・食や農に関わる生命化学分野の専門知識や技術にもとづき、情報収集・実験を行い、分析することができる。
 - ・食や農に関わる生命化学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

生命機能科学科環境生物学コース

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、農学部生命機能科学科環境生物学コースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本コース学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・食や農に関わる生物学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用することができる。
 - ・高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生物学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定することができる。
 - ・食や農に関わる生物学分野の専門知識にもとづき、実験・調査を行い、分析を行うことができる。
 - ・食や農に関わる生物学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

神戸大学のカリキュラム・ポリシーにもとづき、農学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)

・食料環境システム学科生産環境工学コース

- ・「食や農に関わる工学的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
- ・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる工学的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる工学的分野の専門知識にもとづき、実験・調査を行い、解析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
- ・「食や農に関わる工学的分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

・食料環境システム学科食料環境経済学コース

- ・「食や農に関わる社会経済的分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
- ・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる社会経済的分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる社会経済的分野の専門知識にもとづき、情報収集・社会調査を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
- ・「食や農に関わる社会経済的分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

・資源生命科学科応用動物学コース

- ・「食や農に関わる動物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
- ・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる動物科学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる動物科学分野の専門知識にもとづき、実験・情報収集・調査を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
- ・「食や農に関わる応用動物学分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

- ・資源生命科学科応用植物学コース
 - ・「食や農に関わる植物科学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
 - ・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる植物科学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる植物科学分野の専門知識にもとづき、観察・実験を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
 - ・「食や農に関わる植物科学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

- ・生命機能科学科応用生命化学コース
 - ・「食や農に関わる生命化学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
 - ・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生命化学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる生命化学分野の専門知識や技術にもとづき、情報収集・実験を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
 - ・「食や農に関わる生命化学分野の専門知識を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・演習・実験等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

- ・生命機能科学科環境生物学コース
 - ・「食や農に関わる生物学分野の基盤となる知識を体系的に理解・応用する能力」を身につけることができるよう共通専門基礎科目を置く。
 - ・「高い倫理観と使命感をもって、食や農に関わる生物学分野の研究を批判的に検討し、課題を適切に設定する能力」および「食や農に関わる生物学分野の専門知識にもとづき、情報収集や調査・検証を行い、分析を行う能力」を身につけることができるよう専門科目を開設する。
 - ・「食や農に関わる生物学分野の専門知識や技術を、社会的課題の解決策として活用する能力」を身につけることができるよう専門科目および高度教養科目を開設する。

なお、これらの科目は、講義・実験・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。

学修成果の評価は、学修目標に即して多面的、包括的な方法で行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

農学部では、食料・環境・健康生命をキーワードとし、農場から食卓までの諸課題の解決を通じて、人類の生存と福祉に貢献することを理念としています。

これに基づき、自然科学や社会科学を含む総合科学である農学を基礎とした幅広く深い教養に加えて国際感覚と豊かな人間性をそなえ、食料の安定供給、環境保全と新規バイオ産業の創生および食の安全安心に向けた研究や技術開発を通じて地域および国際社会に貢献できる人材の養成を目標として、次のような学生を求めています。

●農学部を求める学生像

1. 日本語や英語の基礎的な理解力、表現力などのコミュニケーション能力を身につけている学生

〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力〕

2. 自然科学および社会科学の基礎を十分に理解できる学生

〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力〕

3. 人間と自然のかかわり合いに強い関心を持ち、未知の現象の解明や独創的な技術開発に意欲的に取り組める学生

〔求める要素：思考力・判断力・表現力，関心・意欲〕

4. 地域および国際的な社会活動に高い意欲を有する学生

〔求める要素：主体性・協働性，関心・意欲〕

※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：文章を読み解く読解力。明確な表現力。

「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。

「数学」：数学的思考力，表現力，総合力。

「理科」：自然科学の総合的理解力，論理的思考力。

「英語」：読解力，コミュニケーション力，表現力。

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、農学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。

・「志」特別入試では、「関心・意欲」「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」「主体性・協働性」を測ります。

・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「関心・意欲」を測ります。

学部等名 海事科学部
教育研究上の目的 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/purpose.html)
(概要) 各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。 (1) グローバル輸送科学科 人間活動を支える地球規模の物流の基盤を支える輸送体系の高度化に貢献する人材を育成することを目的とする。 (2) 海洋安全システム科学科 地球の70%を占める海域の健全性の維持と、四面を海に囲まれた我が国の持続的発展に不可欠な海洋の開発・活用・保全及び海域にかかる安全・安心社会の維持に貢献する人材を育成することを目的とする。 (3) マリンエンジニアリング学科 広い知識を授けるとともに、船舶をはじめとして海洋に関するメカトロニクス技術、環境保全技術、省エネ・新エネ技術等に関する教育研究を行い、海洋機械・構造物の高効率かつ環境に配慮した運用・管理を実現するための実践的な問題解決能力を身に付けた人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)

(概要)

神戸大学海事科学部は、海事に対する深い理解を育むと共に、国際性、人間性、創造性並びに専門性豊かな指導的人材の育成を通じて、紺碧の海を守り、海事科学の発展と国際海事社会に貢献することを目的としている。

この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士（海事科学）

グローバル輸送科学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、海事科学部グローバル輸送科学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシー定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・地球規模での交通・物流活動に関わる基礎から応用までの知識と技術を修得する。
 - ・安全で効率的な交通・物流ネットワークを構築するために、輸送分野のグローバルリーダーとしての基礎的・専門的能力を身につける。

(航海マネジメントコース)

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバル輸送科学科航海マネジメントコースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシー定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・国際海上輸送活動に関わる基礎から応用までの知識と技術を修得する。
 - ・安全で効率的な国際海上輸送ネットワークを構築するために、国際海上輸送分野のグローバルリーダーとしての専門的能力を身につける。

(ロジスティクスコース)

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバル輸送科学科ロジスティクスコースは以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシー定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・国際経済・交通・物流活動に関わる基礎から応用までの知識と技術を修得する。
 - ・安全性、効率性、環境保全の視点から、地球規模の交通・物流システムを設計／構築・評価、管理運用できる専門的能力を身につける。

海洋安全システム科学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、海事科学部海洋安全システム科学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシー定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・基礎から応用までの理工学分野の幅広い知識を修得する。
 - ・地球環境の保全並びに安全かつ安心できる海上輸送や社会基盤システムの構築に貢献できる素養（専門的能力の基礎）を身につける。

マリンエンジニアリング学科

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、海事科学部マリンエンジニアリング学科は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・本学部に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学生が、身につけるべき能力を次のとおりとする。
 - ・持続可能な社会の実現に不可欠な工学に関する基礎学力を修得する。
 - ・メカトロニクス技術や船用機関及びマリンエンジニアリング関連機器技術を理解し、活用・発展できる能力を身につける。
 - ・技術的観点からシステム全体を把握し、管理・評価できる能力を身につける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：HP <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html>)

(概要)

神戸大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、海事科学部は以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

1. 「人間性」「創造性」「国際性」を学生に身につけさせるため、すべての学生が履修する共通の科目として、基礎教養科目、総合教養科目、高度教養科目、外国語科目、初年次セミナー、キャリア科目、情報科目、健康・スポーツ科学及びその他必要と認める科目を開設する。
2. 深い学識を涵養し、「専門性」を学生に身につけさせるため、以下の専門科目を開設する。(共通専門基礎科目及び学部が開設する高度教養科目を含む)

・グローバル輸送科学科

- ・地球規模での交通・物流活動に関わる基礎から応用までの能力を身につけることができるよう学科共通科目必修科目を開設する。
 - ・安全で効率的な交通・物流ネットワークを構築するために、輸送分野のグローバルリーダーとしての能力を身につけることができるよう学科共通科目選択科目を開設する。
- なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

(航海マネジメントコース)

- ・国際海上輸送活動に関わる基礎から応用までの能力を身につけることができるよう第一専門科目を開設する。
 - ・安全で効率的な国際海上輸送ネットワークを構築するために、国際海上輸送分野のグローバルリーダーとしての能力を身につけることができるよう第二専門科目を開設する。
- なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

(ロジスティクスコース)

- ・国際経済・交通・物流活動に関わる問題を経営数理的視点から解決する能力を身につけることができるよう経営数理分野科目を開設する。
 - ・地球規模の交通・物流システムの設計／構築・評価、管理運用に関わる問題を計画論的視点から解決する能力を身につけることができるよう輸送計画分野科目を開設する。
 - ・経営数理的視点と計画論的視点とを統合して問題を解決する能力を身につけることができるよう演習科目を開設する。
- なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせで行う。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。

・海洋安全システム科学科

- ・基礎から応用までの理工学分野の幅広い知識を修得できるよう学科共通科目必修科目

<p>を開設する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境の保全並びに安全かつ安心できる海上輸送や社会基盤システムの構築に貢献できる能力を身につけることができるよう学科共通科目選択科目を開設する。 <p>なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。</p> <p>・マリンエンジニアリング学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の実現に不可欠な工学に関する基礎学力、基礎的知識を身につけることができるよう学科共通科目を開設する。 ・メカトロニクス技術や船用機関及びマリンエンジニアリング関連機器技術を理解し、活用・発展できる能力を身につけることができるよう、第一専門科目、機関マネジメントコース・メカトロニクスコース第二専門科目を開設する。 ・技術的観点からシステム全体を把握し、管理・評価できる能力を身につけることができるよう、第一専門科目、機関マネジメントコース・メカトロニクスコース第二専門科目を開設する。 <p>なお、これらの科目は、講義・実技・実習等の授業形態に応じて、アクティブラーニング、体験型学習などを適宜組み合わせる。学修成果の評価は、学修目標に即して多元的、包括的な方法で行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：HP http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/policy/index.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>海事科学は、海・船を舞台にした人間活動に関わる輸送・情報・環境・エネルギーなどの様々な問題を科学的なアプローチで解決する学際的な学問領域です。海事科学部は、自然科学と社会科学を高度に融合させた世界的に見ても極めてユニークな教育体系に基づき、海・船や環境・エネルギーに関する深い理解と幅広い教養を備えた国際的に活躍できる人材の育成を目標として、次のような学生を求めています。</p> <p>●海事科学部の求める学生像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海・船への憧れとともに、幅広い分野に興味を持つ学生 [求める要素：関心・意欲] 2. 環境やエネルギー等の新しい分野を開拓し、問題の発見と解決へ向けて意欲的に取り組める学生 [求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲] 3. 海・船を通して国際社会で積極的に活動できる学生 [求める要素：主体性・協働性，関心・意欲] 4. 基本的学力をそなえるとともに、理数科目および語学力（英語）とそれによるコミュニケーション能力の向上に意欲的に取り組める学生 [求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲] <p>※高等学校等で修得しておいてもらいたい内容</p> <p>「国語」：文章を読み解く読解力。明確な表現力。 「地歴・公民」：幅広く総合的な知識。様々な社会現象を捉える分析力。 「数学」：数学的思考力，表現力，総合力。 「理科」：自然科学の総合的理解力，論理的思考力。 「英語」：読解力，コミュニケーション力，表現力。</p> <p>●入学選抜の基本方針</p> <p>以上のような学生を選抜するために、海事科学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測ります。 ・「志」特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。 ・推薦入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関

心・意欲」を測ります。
 ・私費外国人(留)学生特別入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ウェブサイトにて公表
 (http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/organization.html)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	14人	—					14人
評価室	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
地域連携推進室	—	0人	2人	0人	0人	0人	2人
広報室	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
安全保障輸出管理室	—	2人	0人	0人	0人	0人	2人
学術研究推進機構	—	8人	3人	1人	0人	0人	12人
大学教育推進機構	—	10人	3人	3人	5人	0人	21人
国際連携推進機構	—	4人	5人	4人	1人	0人	14人
大学院人文学研究科	—	21人	23人	5人	3人	0人	52人
大学院国際文化学研究科	—	38人	15人	4人	1人	0人	58人
大学院人間発達環境学研究科	—	42人	45人	2人	2人	0人	91人
国際人間科学部（鶴甲第一キャンパス）	—	0人	0人	2人	1人	0人	3人
国際人間科学部（鶴甲第二キャンパス）	—	0人	1人	0人	1人	0人	2人
大学院法学研究科	—	46人	13人	1人	3人	3人	66人
大学院経済学研究科	—	27人	11人	6人	1人	1人	46人
大学院経営学研究科	—	32人	17人	1人	1人	3人	54人
大学院理学研究科	—	34人	33人	7人	12人	0人	86人
大学院医学研究科	—	53人	40人	24人	68人	1人	186人
大学院医学研究科附属動物実験施設	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
大学院医学研究科附属感染症センター	—	2人	1人	1人	4人	0人	8人
医学部附属病院	—	14人	16人	38人	123人	0人	191人
大学院保健学研究科	—	26人	17人	3人	19人	0人	65人
大学院工学研究科	—	49人	56人	3人	32人	4人	144人
大学院システム情報学研究科	—	17人	12人	8人	10人	0人	47人

大学院農学研究科	—	32人	27人	0人	18人	0人	77人
大学院農学研究科附属食資源教育研究センター	—	1人	2人	0人	2人	0人	5人
大学院海事科学研究科	—	26人	28人	4人	4人	0人	62人
大学院海事科学研究科附属国際海事研究センター	—	1人	3人	0人	1人	0人	5人
大学院海事科学研究科附属練習船深江丸	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
大学院国際協力研究科	—	13人	7人	0人	4人	0人	24人
大学院科学技術イノベーション研究科	—	22人	9人	0人	13人	0人	44人
先端融合研究環	—	4人	0人	0人	0人	0人	4人
バイオシグナル総合研究センター	—	7人	7人	1人	4人	0人	19人
内海域環境教育研究センター	—	4人	2人	0人	4人	0人	10人
都市安全研究センター	—	8人	6人	1人	1人	0人	16人
分子フォトサイエンス研究センター	—	3人	4人	0人	1人	0人	8人
海洋底探査センター	—	4人	1人	2人	4人	0人	11人
社会システムイノベーションセンター	—	8人	1人	0人	0人	0人	9人
経済経営研究所	—	12人	5人	1人	2人	3人	23人
経済経営研究所附属企業資料総合センター	—	1人	0人	1人	0人	0人	2人
情報基盤センター	—	3人	3人	0人	1人	0人	7人
研究基盤センター	—	1人	0人	0人	4人	0人	5人
環境保全推進センター	—	0人	1人	0人	1人	0人	2人
計算科学教育センター	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
保健管理センター	—	1人	1人	1人	3人	0人	6人
アドミッションセンター	—	0人	2人	0人	0人	0人	2人
キャンパスライフ支援センター	—	0人	1人	0人	0人	0人	1人
数理・データサイエンスセンター	—	2人	0人	1人	1人	1人	5人
計算社会科学研究センター	—	2人	1人	4人	1人	0人	8人
先端バイオ工学研究センター	—	2人	1人	0人	5人	0人	8人
先端膜工学研究センター	—	3人	0人	0人	0人	0人	3人
未来医工学研究開発センター	—	2人	2人	0人	0人	0人	4人
海洋教育研究基盤センター	—	0人	2人	0人	0人	0人	2人
医学部附属病院国際がん医療・研究センター	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人

b. 教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	847人	847人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：ウェブサイトにて公表 (http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/teacher.html)	
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）		

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	100人	108人	108%	415人	473人	113%	若干人	0人
国際人間科学部	370人	382人	103%	1,120人	1,146人	102%	10人	4人
国際文化学部				140人	216人	154%		
発達科学部				290人	355人	122%		
法学部	180人	193人	107%	760人	833人	109%	20人	12人
経済学部	270人	284人	105%	1,120人	1,266人	113%	20人	14人
経営学部	260人	266人	102%	1,080人	1,196人	110%	20人	18人
理学部	153人	158人	103%	649人	688人	106%	25人	24人
医学部	272人	278人	102%	1,337人	1,385人	103%	5人	4人
工学部	565人	578人	102%	2,275人	2,440人	107%	20人	18人
農学部	160人	172人	107%	650人	694人	106%	10人	6人
海事科学部	200人	202人	101%	820人	885人	107%	10人	8人
合計	2,530人	2,621人	103%	10,656人	11,577人	108%	140と若干人	108人
(備考) 国際文化学部及び発達科学部は、平成29年度より学生募集停止。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	121人 (100%)	16人 (13.2%)	96人 (79.3%)	9人 (7.4%)
国際文化学部	151人 (100%)	12人 (7.9%)	128人 (84.8%)	11人 (7.3%)
発達科学部	282人	62人	196人	24人

	(100%)	(22.0%)	(69.5%)	(8.5%)
法学部	184人 (100%)	41人 (22.3%)	129人 (70.1%)	14人 (7.6%)
経済学部	278人 (100%)	14人 (5.0%)	251人 (90.3%)	13人 (4.7%)
経営学部	279人 (100%)	4人 (1.4%)	259人 (92.8%)	16人 (5.7%)
理学部	159人 (100%)	106人 (66.7%)	44人 (27.7%)	9人 (5.7%)
医学部	273人 (100%)	56人 (20.5%)	95人 (34.8%)	122人 (44.7%)
工学部	542人 (100%)	401人 (74.0%)	125人 (23.1%)	16人 (3.0%)
農学部	156人 (100%)	99人 (63.5%)	55人 (35.3%)	2人 (1.3%)
海事科学部	197人 (100%)	104人 (52.8%)	84人 (42.6%)	9人 (4.6%)
合計	2,622人 (100%)	915人 (34.9%)	1,462人 (55.8%)	245人 (9.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 医学部の「その他」122人のうち、105人は臨床研修医				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全授業科目においてシラバスを作成することとしており、医学部医学科を除いた学部で、教務情報システムを利用した統一様式によるウェブ化を行い、学内外に周知・公表している。また、医学部医学科のシラバスについても、医学部医学科のウェブサイトを通じて学内外に周知・公表している。</p> <p>シラバスの項目は、以下のとおり。</p> <p>①基本情報 (科目分類、開講年次、時間割コード、開講区分、開講科目名、曜日・時限、主担当教員、単位数、授業形態、ナンバリングコード)</p> <p>②詳細情報 (授業のテーマ、授業の到達目標、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意 (関連科目情報)、事前・事後学修、オフィスアワー・連絡先、</p>

学生へのメッセージ、今年度の工夫、教科書、参考書・参考資料等、授業における使用言語、キーワード、参考 URL)

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
各学部が定めるカリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに基づき、単位授与・履修認定について、厳格かつ適正に評価・認定を行うとともに、卒業又は修了の認定を行っている。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	人文学科	132 単位	有・無	単位
国際文化学部	国際文化学科	136 単位	有・無	単位
発達科学部	人間形成学科	124 単位	有・無	単位
	人間行動学科	124 単位	有・無	単位
	人間表現学科	124 単位	有・無	単位
	人間環境学科	124 単位	有・無	単位
国際人間科学部	グローバル文化学科	124 単位	有・無	単位
	発達コミュニティ学科	124 単位	有・無	単位
	環境共生学科	124 単位	有・無	単位
	子ども教育学科	124 単位	有・無	単位
法学部	法律学科	125 単位	有・無	単位
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	単位
経営学部	経営学科	134 単位	有・無	単位
理学部	数学科	124 単位	有・無	単位
	物理学科	124 単位	有・無	単位
	化学科	124 単位	有・無	単位
	生物学科	124 単位	有・無	単位
	惑星学科	124 単位	有・無	単位
医学部	医学科	201 単位	有・無	単位
	保健学科	125～127 単位	有・無	単位
工学部	建築学科	127 単位	有・無	単位
	市民工学科	126 単位	有・無	単位
	電気電子工学科	126 単位	有・無	単位
	機械工学科	127 単位	有・無	単位
	応用化学科	129 単位	有・無	単位
	情報知能工学科	124 単位	有・無	単位
農学部	食料環境システム学科	126 単位	有・無	単位
	資源生命科学科	126 単位	有・無	単位
	生命機能科学科	126 単位	有・無	単位
海事科学部	グローバル輸送科学科	130 単位	有・無	単位

	海洋安全システム 科学科	130 単位	有・無	単位
	マリンエンジニア リング学科	130 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： 学位の取得状況・進路状況・資格取得状況 （神戸大学 HP「教育情報の公表」URL： http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/student.html ）		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ及び大学案内等パンフレットによる 【ホームページ】 http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/index.html ※キャンパスごとに施設位置・施設名を掲載 【大学案内】 http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-examinavi/admission/admission04/annai.html 【その他】 各学部の事務部において学部案内を希望者に配布している。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部全学科共通		535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 平成 29 年度に改正した留学生についての入学料・授業料免除制度の選考基準に基づき、適正な審査、選考を行うとともに、授業料免除や各種奨学金の申請に関する情報が十分伝わるよう、ウェブサイトや案内冊子の充実及び説明会の実施等を通じて周知を徹底している。 また、学生寮は入居率 90%以上の水準を維持しながら、経済的支援を必要とする学生が入居できるよう、適切な管理運営を行っている。 課外活動団体を対象として開催しているリーダーズトレーニングや応急処置講習会に、より多くの非公認団体に参加を促して実施し、安心・安全な課外活動を促進している。 課外活動施設の修繕や部室等の空調機の更新を行い、課外活動の環境を整備している。 また、深江キャンパスのグラウンドについて、芝生化に着手し（2年計画）、より安全な課外活動ができるよう配慮している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターでは、キャリア支援・ボランティア支援両部門の連携と、キャリア支援・ボランティア支援両科目の授業開講により、就業支援・ボランティア支援のみならず「社会の中での自分の役割」や「職業や市民生活を通して社会に貢献する意味」を考えさせる教育まで踏み込んで行っている。これは現代社会のニーズに応えうる「人間性豊かな指導的人材」を輩出するために必要な取組である。

【キャリア支援について】

学内のキャリア支援体制をネットワーク型で全学的に展開している。各学部・研究科の就職委員会、各同窓会並びに大学生協、六甲台就職相談センター、学生団体、東京オフィス（キャリアセンター東京分室）、国際教育総合センター、学術・産業イノベーション創造本部等の自発的な活動と連携を取り、様々な情報の発信や相互の行事告知協力などを行うとともに、各就職支援組織による意見交換会や情報共有を定期的に行いながら、他大学にはない独自の全学的キャリア・就職支援活動を行っている。

キャリアセンターにおける支援としては、キャリア・デベロップメント・アドバイザー（CDA）資格を持つアドバイザーが個別の進路・就職相談で指導・助言を行い、学生の主体的なキャリア選択をサポートしている。また、CDA 勉強会を定期的に行い、キャリア支援の均質化、質の向上を推進している。

【ボランティア支援について】

阪神・淡路大震災発生後、地域社会及び災害被災地での学生ボランティア活動の経験を重ね、被災地にある大学ならではの学生主体の社会貢献活動支援を行い、同時にそれをキャリア形成に活かしている点が、本学ならではのユニークな取組みと言える。このようなボランティア支援においても、キャリアセンターを中心に、兵庫県・神戸市の関係機関、地元の社会福祉法人、各種 NPO・NGO、学生団体、都市安全研究センターなどと連携・協力するネットワーク型の展開を行っている。

さらに被災地の支援においては、被災地の自治会・町内会、社会福祉協議会、NPO、地元大学と連携をし、マンパワー提供だけにとどまらず、被災者の自立支援、コミュニティ形成支援につながるソフト面での支援に力を入れている。

これまでに東日本大震災被災地へは合計 70 回、延べ 1,730 人の学生を、熊本地震被災地へは合計 27 回、延べ 194 人の学生を、大阪北部地震被災地へは合計 2 回、延べ 8 名の学生を、西日本豪雨災害被災地へは合計 16 回、延べ 57 人の学生を送り出している。（2019 年 3 月現在）

また、上記活動を含めた学生災害ボランティア団体への活動の助言や研修も行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

保健管理センターにおいて、健康診断、健康相談（「からだの健康相談」、「こころの健康相談」）、保健指導、健康教育、THP（心と身体の健康づくり運動）による疾病の予防や早期発見対策、感染症対策、及び産業医活動を通じて、学生個々のみならず学生集団としての健康の保持増進に努め、修学を支援している。

また、障害のある学生に対する支援については、キャンパスライフ支援センターが各部局と連携しながら、支援フローについて実践に則して改善するとともに、教職員及び学生の理解促進とサポート学生養成のため PC ノートテイク等の研修会を実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ウェブサイトにて公表

(http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/index.html)